

# 令和5年度 学校評価報告書

園 名 三田市立志手原幼稚園

## 1 教育目標

- 意欲的な子…どんな遊びにも喜んで取り組み力いっぱいがんばる子
- やさしい子…みんなと仲良く遊び  
こころ豊かな思いやりのある子
- 元気な子……明るくよく遊ぶたくましい子

## 2 重点目標

『様々な人や友達と互いに認め合い、関わり合おうとする意欲を育てる』  
～心を動かしながら関わり合って遊ぶ姿を支える  
教師の役割を探る～  
4歳児：安心した園生活の中で友だちと関わり合って遊ぶ楽しさを味わう。  
5歳児：互いの気持ちや持ち味に目を向け、それらを生かしながら自分たちで生活を進めていく楽しさを味わう。

## 3 自己評価結果

分野領域	評価項目	幼稚園の取組状況・改善の方策	4 学校関係者評価
教育課程	幼児の内面理解を深め、4、5歳児それぞれの発達過程を保障しながら、見通しをもった保育計画を立て、実践していく。	日々の幼児の姿から、「何を考え」動き出そうとしているのかを探り、個々の思いを支える援助のあり方について職員間で話し合いを重ねてきた。日常的に職員間で語り合う姿勢を大切にしていきたい。	小規模園だからこそその良さを生かして保育を進めている様子が窺える。今後も、志手原だからこそできることを探しながら、様々なことに取り組んでいってほしい。 お互いを認め合ったり、優しさを相手に向けられたりしているのが素晴らしい。そして、その子どもの優しさに、教師や大人が気づけていることも大切なことだと思う。その優しさを、広げていけるよう、今後も丁寧に取り組んでいってほしい。 近隣園で連絡を取り合ったり、連携したりしていることは大切だと思う。今後も引き続き連携しながら子ども達のことを見ていってほしい。
	幼児が主体的に動き出せるような環境構成の工夫をし、遊びを支える教師の保育の質を高めていく。	直接的な向き合う援助だけでなく、見守り、寄り添う援助により、自ら動き出そうとする力を大切に育んできた。適切な援助のあり方を今後も探っていきたい。	
	教師間の連携を図り、幼児の姿を多面的に捉え、共有していく。	本幼稚園職員のみならず、近隣園隣接小学校職員とも連携しながら、一人一人の幼児の姿を多面的に捉える努力をしてきた。	
	東北部の園職員で研修し合い、幼児同士が安心して交流を深め、学び合えるような環境構成、援助の方法を探っていく。	研修を通して、より様々な角度で幼児を捉えようとしてできるようになってきた。職員自身の思考傾向を意識し、変革しようとする姿勢が育ってきている。	
子育て支援	未就園児や園児が楽しく集える場作りの工夫	前回の事業を見直し、次回の計画を立てるようにしてきた。活かしにくいこともあったが、臨機応変に対応していける体制をつくっていききたい。	子どもの数の減少は実感としてある。子ども達だけでなく、子育て世代の保護者のみなさんを支援し続けていってほしい。 地域には『つながり広場』もある。こういった施設ともつながりながら、子ども達そして保護者が笑顔で過ごせるよう取り組んでいってほしい。
	親同士が安心して集い、温かなつながりを育むことができる場作りの工夫	チラシの配布を、地域内に限定せず近隣地域に拡大することで、他地域の子育て世代にも参加いただくことができた。周知の方法を工夫する大切さを感じている。	
保護者・地域住民との連携	園の取り組みや幼児の育ちの情報発信の工夫	園の活動について興味をもっていただくよう、地域にも園だよりを配布させていただいた。「読んだよ」と語りかけてくださる方もあり、ありがたく感じている。今後、発信内容について熟慮していきたい。	園だよりを読ませてもらっている。回覧なので落ち着いて読めないのが残念なところはある。でも、こんなことをしているんだ…と分かって嬉しい。  できる範囲で園に協力しようと思っている地域の人はいっぱいいる。様々な方面の知識をお持ちの方も多し。園として協力してほしいことは声をかけてもらえると嬉しい。
	地域と連携したふれあいや体験活動の工夫	園活動に支援を申し出てくださいる方もあり、日々の活動を助けていただいた。地域の多くの皆さんの知恵をお借りし、様々な直接体験ができた。	
学校園所連携	小学校との様々な交流活動や職員連携の工夫	年間を通して、交流活動を計画実施することができた。多忙な中、職員間の話し合いの時間を見つけることが難しくなっている。大切なことを見失わないように互恵性のある話し合いにしていきたい。	年間通して取り組んできた幼小交流の場『なかよしタイム』の取り組みが素晴らしい。幼稚園を開いてもらえることで、小学生も喜んでいる。今後も、様々な工夫しながら、子ども達同士、教師同士が交流できる場を確保していってほしい。
	中学校区連携推進への参画	中学校区共通の目標を掲げ、全職員で研修研鑽を重ねてきている。	

## 5 総合的な評価結果

継続して園だより等で園児の様子を地域の方々にお知らせすることができた。園で大切にしていること、学んでいること、経験させたいことなどを理解いただくことで、地域の方から援助を申し出てくださる声もあった。

来年度や再来年度以降に向けて、環境を整えていくべく、保護者や地域の方と話し合いの機会をもっているところである。

次年度、保育の場は変わるが、地域の方との関わりを切らさないよう、工夫して取り組んでいきたい。また、積極的に地域へ発信していきたい。

## 6 総合的な学校関係者評価

様々な行事を通して、子ども達の頑張りが見られた。4月当初の姿から、強く優しく成長してきている様子が何より嬉しかった。毎年、クラスの雰囲気は違うが、年間を通して一人一人の大きな成長が見られるのが、この幼児期ならではの思う。

来年度そして再来年度、大きく変わっていくところもあるが、大切にしたいことを忘れず、子ども達の成長を丁寧に支えていってほしい。

こうして子ども達のことを園や地域で話し合う機会は楽しくもあり、貴重で大切だと思う。